

## 「情報」という語の成り立ち

When and how did the Japanese word “Joho” appear and widespread?

小野 厚夫

Atsuo Ono

神戸大学名誉教授, 神戸市灘区六甲台町 1-1

Kobe University, Professor Emeritus, 1-1 Rokkodai, Nada-ku, Kobe

**あらまし:** 「情報」は日本で造られた漢語で、明治9(1876)年に酒井忠恕が訳した「仏国歩兵陣中要務実地演習軌典」に最初に現れる。その原語はフランス語の *renseignement* で、敵の「情状の報知」を意味する。この訳本は野営演習の教習本として用いられ、さらに「情報」は15年の「野外演習軌典」で公式に採用されたことによって、陸軍内で普及した。当初「状報」も併用されていたが、ほどなく「情報」に一本化されてしまう。新聞では27年の日清戦争の記事に最初に現れ、33年の北清事変で早くも日本語として一般化し、日露戦争の直前から国語辞典に採録されるようになった。

**Summary:** The oldest book used the word “Joho” was published in 1876 as a Japanese translation version of French army book. The original word is “*renseignement*” in French. It was used in the official documents in 1882, and spread in the army. In the newspapers, it appeared first during the Sino-Japanese War in 1894-5, and obtained general acceptance among the people from the articles of the North China affair in 1900. After 1904, the word “Joho” was found in the dictionaries of Japanese language.

**キーワード:** 情報, 翻訳語, フランス語源, 一般化

**Keywords:** “Joho”, “*renseignement*”, derivation of the word, generalization of the word

### 1. はじめに

「情報」は中国でも使われているが、中国人が日本語来源の中国語として認めている。また最近、「情報」を分析の手段として取り上げるようになった日本近代史の研究者たちが、江戸時代には「情報」という言葉はなかったと書いているので、明治に入ってから日本で造られた語とみなすことができる。

### 2. 「情報」の初出

「情報」が用いられた書物で最古のものは、明治9(1876)年に酒井忠恕が訳した『佛國歩兵陣中要務實地演習軌典』である。原書は1875年にフランス陸軍が刊行した『*Instruction pratique sur le*

*service de l'infanterie en campagne*』で、「情報」の原語はフランス語の「*renseignement*」である。

この私本は西南の役後、陸軍の各鎮台で実施された野外演習の教習本に採用され、広く陸軍内に普及したが、版木が摩耗したため、明治14年に再版された。陸軍省は明治15年に『野外演習軌典』を編集、発刊したが、酒井の訳本を基礎にしており、これが「情報」を用いた最初の公文書となる。

「情報」は敵の「情状の報知(ないしは報告)」の意味で、それを二字熟語に縮めたものと解釈することができる。「情」と「状」には「ありさま、ようす」という共通の意味があり、『野外演習軌典』の発刊後「情報」と「状報」が併用されてい

たが、「状報」は兵語統一の動きの中で明治20年代中頃から出現頻度が激減し、次第に淘汰されていく。

### 3. 「情報」という語の一般化

新聞に「情報」という語が現れるのは日清戦争の時である。明治27年11月29日付けの新聞『日本』の従軍記事が最初の用例で、旅団の命令書の写しに現れる。『日本』は翌30日の付録(号外)で大本営掲示を転載していて、その文中に「情報」が用いられている。しかし、他の新聞社では広島の特派員が送った電文の「ジャウハウ」ないしは「ゼウハウ」が何を意味するのか判断できなかったとみえ、「ゼウ報、諸報、戦報、詳報、報告」などと、ばらばらの書き換えがなされた。しかし、すぐに「情報」は新聞用語として通用するようになり、見出しにも使われるようになった。

日清戦争から日露戦争までの約10年は、その間に北清事変もあり、日本にとっては国際社会に確固たる地位を占める重要な時期となったが、報道に重点を移した新聞はいずれもこれら三つの戦役時に発行部数を飛躍的に増大させた。

当時の新聞における「情報」の出現頻度を調べてみると、平時は演習記事にたまに現れる程度であるが、戦時に急増する。日清戦争後は、プール戦争(南ア戦争)と北清事変の勃発によって明治33(1900)年の新聞の見出しと記事に「情報」が頻発している。この2年後あたりから国語辞典に「情報」が採択されるようになった経緯と考え合わせると、「情報」は明治27年の日清戦争で新聞用語として成立し、明治33年の北清事変で一般化したとみなすことができる。

その後の国語辞書の解釈をみると、移入した側の中国では「情報」を軍用語として捉えているのに対し、日本では「情報」を「ようすのしらせ」とか「事情の知らせ」のように、軍事色のない、ごく一般的な定義にしていることが注目される。

### [参考文献]

- 小野厚夫『明治9年、「情報」は産声』『日本経済新聞』1990年9月15日朝刊文化欄
- 小野厚夫『「情報」という語の由来と変遷』『富通ジャーナル』17巻1号75頁、1991年1月
- 小野厚夫『明治期における「情報」と「状報』』神戸大学教養部紀要「論集」47巻81頁、1991年3月
- 小野厚夫『情報小論』神戸大学国際文化学部紀要「国際文化学研究」創刊号1頁、1994年3月
- 小野厚夫『情報という言葉を探ねて』(1)～(3)情報処理学会学会誌「情報処理」46巻4～6号(2005年4月～6月)
- 小野厚夫『情報という言葉の初出とその一般化—明治期の情報』『情報通信学会誌』89号88頁、2009年3月

### [年表]

明治9年	「伝国兵陣中要務規程(勅典) 訳	1876
15	「野外演習(勅典) 制定	1882
20	「伝和語(村)に「状報」	1887
27-28	日清戦争	1894-5
33	北清事変	1900
37-38	日露戦争	1904-5
大正3年	第一次世界大戦	1914-8
10	外務省(情報)部設置	1921
昭和三十二年	内閣(情報)委員会設置	1936
12	内閣(情報)部設置	1937
14	第二次世界大戦	1939-5
15	情報局設置	1940
16	太平洋戦争	1941-5
23	Shannon 「情報理論」の論文	1948
35	情報処理学会発足	1960
38	梅田忠夫 情報産業論 情報(化)社会	1963
58	長山泰介 国外通信	1983
平成2年	小野厚夫 「情報」明治九年(産声)	1990